

全国地域作業療法研究会 第17回 学術集会 報告書

大会長 沖 英一

第17回全国地域作業療法研究大会は、平成24年3月3日（土）4日（日）の二日に渡り長崎大学医学部良順会館にて行なわれました。全国より会員43名・非会員52名・学生2名・一般77名の計174名の参加がありました。

今回のテーマは、「つなげよう地域の力、高めようOTの力」として、これからますます必要とされる作業療法の力を高め、多くの人とネットワークを作り地域の中に存在する資源をできるだけ有効に活用していくには、どのようにすべきかを考えました。

特別講演では、山形県立保健医療大学保健医療学部 作業療法学科 慶徳民夫先生に「人と地域をつなぐ作業とは」というテーマで講演をしていただきました。人は、生活の中の作業に健康になるキーワードが隠されていることに気づくべきであり、作業療法の生命線は作業が生活の中で活かされる地域の中にこそあると述べられています。

セミナー1では、(有)いきいきリハビリケア 代表取締役 深井伸吾先生より「地域を繋ぐ架け橋」のテーマで、デイサービスを立ち上げ起業をされた経緯とその施設の基本的理念・それを地域の中で展開していく際に、いかに作業療法が有効であるかを話されました。

セミナー2では、西九州大学大学院 健康福祉学研究科 田平隆行先生に「地域で生活する高齢者の支え方 OTの力」のテーマで、長崎市における介護予防事業に6年間携わった中で一定の効果が得られたことを紹介され、各地域において地域支援事業に作業療法士が役割を明確化した上で支援をしていくことが望まれると話されていました。

セミナー3は、農協共済中伊豆リハビリテーションセンター 梶原幸信先生より「診療報酬・介護報酬同時改定の動向について」のテーマで、最新の情報を伝えていただきました。

体験講話では、JICA 青年海外協力隊に参加され、今年の1月に2年間の勤務を終了し帰国された田中千里先生より、ベトナムでの活動報告が行われました。会場には、かつてアフリカの支援に行ったことのある会員やOT協会元役員の先生より意見が出され、世界の中で日本の作業療法が大いに活躍していることが確認できました。

二日目の午後は、長崎県高次脳機能障害支援センターとの協同開催のシンポジウムでは、「高次脳機能障害者の就労支援」について医療とその他支援機関の代表者が話をされました。その中では、医療と各支援機関（職業センター・就労支援施設など）との連携をどのようにすべきか、それぞれの立場から意見が出され具体的な方法が導き出されました。

最近、他職種合同でリハビリテーションの研修会が開催される中、この研修大会は、作業療法を見つめなおすのに良い機会であったと感じました。

